

平成 21 年 05 月 01 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320031

研究課題名（和文） 近世風俗画の絵画史料論的研究

研究課題名（英文） The theory research for painting historical materials
on genre paintings at the early modern age

研究代表者

奥平 俊六 (OKUDAIRA SHUNROKU)

大阪大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30167324

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：近世絵画史・風俗画・絵画史料・南蛮屏風・祭礼図

1. 研究計画の概要

日本の近世風俗画に描かれた細部画像を可能な限り収集し、その表現内容を検討し、史料として用いる実践的研究

2. 研究の進捗状況

泉万里氏が代表を務めた前半は、主として南蛮屏風の画像収集と分析に焦点を合わせ、その成果を『南蛮屏風集成』という大型図録にまとめた。奥平が代表を引き継いだ後半は、祭礼図およびその他の風俗画について、既存データの整理と新規データの取得を進めている。

近世初期の臨時祭礼を描く「豊国祭礼図」、また公武風俗画に分類される「厩図」「調馬図」については、既存データの整理がほぼ完了した。新規データの取得もほぼ見通しが立っている。

「祇園祭礼図」については既存データが少なく、新規データの取得について所蔵機関の地域ごとに順次に進めていくよう計画を立てている。その間、既存データの多い「洛中洛外図」「京名所図」に描かれたモチーフとしての「祇園祭礼」の画像の整理につとめているが、これはかなりユニークなデータになることが予想される。また、同時に版本や絵馬に描かれた祇園祭礼の画像収集も計画しているが、これは意外に数が多く、まだ文字データのための整理をしている段階である。

また、「能絵」に関しては、能舞台を描く「演能図」「洛中洛外図」「京名所図」など屏風作品の数は限られているが、押絵貼形式に描かれたもので未調査の作品が意外にあることがわかり、これも新規調査予定に加えて

いる。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

祭礼図等の新規データの取得がやや遅れているが、既存データの整理はかなり進み、また前半の大型研究図録作成は南蛮屏風研究のメルクマールとなるものとして高く評価されている。

4. 今後の研究の推進方策

データの整理を進めるとともに、やや遅れている南蛮屏風以外の風俗画の新規データの取得を進める。

2009年度になって、調査とデータ整理の主たる担い手であった複数の院生の就職があり、データ整理がやや滞っている。

また、最終年度に予定していた海外調査が、新型インフルエンザの流行の推移によっては行えなくなる可能性がある。

前者の問題は学部生の活用などでしのげるが、後者については、場合によって完成年度の繰り越し申請をしなければならない可能性がある。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔図書〕(計1件)

坂本満、泉万里、成澤勝嗣、日高薫『南蛮屏風集成』中央公論美術出版、2008.3、全399頁